



美術館が秋色のキャンパスに

子どもフェスタ(9/9)と美術館秋まつり(9/16)で思いっきりアート!



厳しい残暑が続く中、2週にまたがり美術館が関わるアートフェスタが開催されました。

hoKkoで行われた「きたかみ子どもフェスタ」に美術館ブースとして「ぱたぱたバルーンづくり」を出展。親子連れで大にぎわいのイベントで、参加者も絶えることなく、風船の下のカラフルな鳥のはばたきが会場を彩っていました。

「美術館秋まつり」でもその勢いは止まらず、青空の下、チョークや筆を握りしめたちびっこアーティストが紙や路面に思いっきり絵を描きました。館内では鬼の面の色塗りに、かなりエネルギー満ちた子供たちでした!

その前のめりの造形意欲に大人たちも感心しきり。子どもは天才アーティストです。ぜひその感性をまっすぐに伸ばして行ってほしいですね。美術館ではこうしたワークショップを今後も定期的に行います。



木版画の魅力とは?

江戸時代に浮世絵が庶民に広まった要因は木版画という技法によるところが大きく、絵師、彫師、摺師という分業体制が確立し発展を遂げました。昭和の時代には青森出身の棟方志功が木版画で独自のテーマを追求したエネルギー満ちた制作姿勢でその名を広めました。(今年、棟方の生誕120周年を記念する展覧会が富山、青森、東京で開催された)

日本の図工・美術教育において木版画の教育的意義に注目が集まり「日本教育版画協会」が設立されたのは昭和26年のことでした。

版画は、子供が自身の目で見て感じ、材料の抵抗感などから探り当てた独自の表現にはふさわしく、子供の心と結びついた技法として評価されました。さらには生活画や物語絵など、子供の想いを説明することに結びついたものとして定着していきました。

元小・中学校教員の谷内さん自身も子どもたちへの指導を通して木版画に魅了され、退職後から本格的に制作に励むようになりました。登山や伝統芸能を愛し、縄文のイメージへとテーマを膨らませる中で木版画表現を深化させていきました。何より、地道にコツコツと取り組むことができることが最大の魅力と語っています。

関連展示として、谷内さんが指導した小・中学生の木版画展も開催しています。その中のある作品が全国誌の表紙を飾るなど、高い評価を得た作品群です。かつての教え子さんたちが懐かしそうに観覧する様子も見られます。ぜひ足を運んでみて下さい。

令和5年度 後期企画展

山、川と祈り 谷内博司展

11月30日(木)まで

関連展示：小中学生の木版画

- 生涯学習センターギャラリー
- 江釣子交流センター



[神々が見たもの]

「つくる巨人」を顕彰する

—中期企画展「つくる巨人岩間正男展」を振り返って—



中期企画展は、没後10年を迎えた造形作家岩間正男の功績を顕彰する企画展でした。骨太で多彩な造形活動を伝え、その芸術的価値を共有すべく取材や研究を重ね、拡大規模の企画展開催にこぎつけたのですが、知れば知るほど、まさに巨人の軌跡の大きさに圧倒されました。

さらに報道の効果もあり、県内外からの観覧客は多く、館内では有意義な対話の機会も得ることができました。特に岩間の出身地である大槌町をはじめとする沿岸部からの来館が相次ぎ、故人を懐かしむ声が多く聞かれました。

岩間氏を師と仰ぐ佐藤清美氏（本展監修）と及川諄子氏（諄子美術館館長）による「クロストーク」では故人のエピソードを交えて岩間氏のとなりや造形への厳しい姿勢を、ユーモアを交えて丁寧に伝えていただきました。また、当館専任研究員による「深掘り学習会」では、対話を取り入れた鑑賞会が行われ、美術館の可能性を探る試みもなされました。北上市立博物館や鬼の館にも協力いただいた関連作品展示会も好評を得て、たくさんの方の印象に残る企画展となりました。

～@TONE美～ ARTのある「まちづくり」へ —2021年記念事業を振り返る— ⑦

美術館は作品を味わう視点を与え、観客がより深く鑑賞できる手助けをする役割も担う。「アート鑑賞ガイド」なるものを作成し、美術作品鑑賞の一助にしようと考えた。「ありのままを見て感じればいい…」という考え方もあるが、芸術の敷居が高くなっているとすればその原因はそうした素朴なコミュニケーションの不足にあるのではないかと。解説を聞いたうえで鑑賞が深まるのであればそれに越したことはない。そうした考えから、受賞作一点一点に解説をつけてみた。チャンスがあれば作家本人からの説明などを設定し、作品理解に向けたサポートが必要なのではあるまいか。（専任研究員コラム・次号へ続く）

「絵画教室を終えて」受講生の感想より

- ある程度までは描けても、その先へ進むことができなかったので、何かきっかけがつかめな
いかと思い、参加しました。ご指導のおかげで先へ進めそうな気がしてきました。
- 先生が教えてくれるヒントや技術のおかげで自分の中の発想がすごく広がります。とても楽し
く学ばせてもらいました。これからも描いていけたらと思います。
- 毎回、教室で完成できなくて家で完成させることになりました。同じ水彩画でも表現は違っ
たんだあと改めて思いました。
- 色の出し方、形の作り方、バランスのとり方など、アドバイスが自分にないものを引き出し
ていただいたように思います。
- 以前から絵を描いてみたいと思っていました。やってみると難しく大変でしたがまた、
面白さもわかってきたので続けていきたいと思っています。
- 2枚目の絵はいくらかデッサンが活かされた内容になったかと思っています。何より絵に
向き合う心構えが大切だということを学びました。今後はマイペースで絵画を楽し
んでいきたいです。



冬季休館のお知らせ

■冬季休館期間

2023年12月 1日(金)～
2024年 3月31日(日)

■来年度の開館

2024年 4月 1日(月)
から再開します。

◆休館中のお問い合わせは、生涯学
習文化課までお願いします。

◆美術館に関する情報は、ホーム
ページで発信しています。美術館
は冬季休館しますが、この期間に
移動展や絵画教室OB/OGによる
作品展、アートのスクールの実施を
計画していますの
でお見逃しなく！



発行 北上市まちづくり部生涯学習文化課
〒024-0061 岩手県北上市大通り1-3-1
電話 0197-72-8304 FAX 0197-63-3121

利根山光人記念美術館
●開館時間 10:00-16:00
(最終入館は15:30まで)